



## 明治150年記念シンポジウム

# かがわ けいぞう 香川敬三を知る ～幕末の激動から明治の宮中へ～

平成30年（2018）は明治元年（1868）から満150年の節目の年となりました。これを記念して、市では昨年12月15日に、市文化センター小ホールで明治150年記念シンポジウムを開催しました。

本市下伊勢畑出身で明治期に活躍し、後に伯爵の爵位を与えられた「香川敬三」という人物にスポットを当て、敬三の研究家である皇學館大学文学部の上野秀治特別教授並びに県立歴史館史料学芸部の石井裕主任研究員による講演を行いました。

上野先生の基調講演「香川敬三の足跡をたどる」では、特に幕末から明治・大正にかけての時代の動

きを時系列にたどっていき、宮内省における活躍ぶりだけでなく、本人が出世していく様子や当時の状況について講演していただきました。

続く石井先生の講演「香川敬三と茨城の近代」では、敬三と周囲の人々との関係を通じて、水戸藩や水戸藩士への思いのほか、地元伊勢畑との関わりについてご講演いただきました。

今回のシンポジウムをきっかけに、これまでほとんど知られていなかった香川敬三について、今後も継続的に調査研究を実施していく予定です。



▲上野特別教授



▲石井主任研究員



▲ロビー展示の様子



▲多くの方にご来場いただきました

### ◇香川敬三の生涯

香川敬三（1839—1915）は、当時下伊勢畑村の庄屋蓮田孝定の三男・了介として生まれ、同村の神官鯉沼家の養子となり、伊織と称しました（「伊織」は鯉沼家の数代で使用されています）。実兄の蓮田東三とともに水戸に出て藤田東湖の門



▲香川敬三肖像（個人蔵）

人となり、門閥派と改革派が対立する藩内で尊王攘夷運動を展開します。文久3年（1863）藩主に従って上京すると脱藩し、隠棲中の岩倉具視の知遇を得ます。この頃、小林彦次郎という変名を使用し、さらに香川敬三と名乗るようになります。

その後は討幕活動に身を投じ、戊辰戦争では、具視の子具定が務める東山道鎮撫総督（幕府軍討伐のため臨時に置かれた征討官で東海道・東山道・北陸道に置かれた）の補佐として軍監に任命されています。明治3年（1870）に宮内省に採用され、翌年秋には岩倉使節団に随行し欧米を視察しています。明治14年に皇后宮大夫（皇后宮職の長官、皇后の側近）となり明治天皇妃の美子皇后（のちの昭憲皇太后）に近侍しました。この間、明治40年（1907）に伯爵の爵位を与えられ、死去する大正4年（1915）3月18日に従一位となりました。水戸藩出身者では異例の栄進を遂げた人物ですが、それにとどまらず、近代国家における皇后を長年にわたり支え、一方で故郷の学校や道路整備のための資金拠出、旧水戸藩士の顕彰や資金援助など、その功績は、激動の時代を生き抜いた生涯とともに改めて記憶されるべきものです。

### ◇香川敬三に関する史料

香川敬三に関する古文書史料は、学習院大学が所蔵する2万5千点の史料群が最大のもので（もとは皇學館大学所蔵、昨年8月に学習院大学へ移管）、これは敬三が初代となった香川家が所蔵していたものです。明治期の政府要人の史料群としては国内有数の規模といえます。このうちの約1万5千点を書簡が占めます。

一方、市内では現在までに、敬三、娘の志保子、2番目の妻須磨子の書簡24通と和歌4首が確認されています。敬三は幕末に上京して勤王の志士たちと親しく交わるようになり、維新後、宮内省に採用されると専ら東京にいて、故郷に帰る機会はほとんど

なかったようです。そのため残念ながらそれほど多くの史料が当地に残されているわけではありません。

敬三が地元であまり知られていないのも、そのような理由のためかも知れません。



▲香川敬三の手紙（市文書館蔵）

### ◇故郷への思い

敬三は故郷に、道路改良や学校整備、村内金融の基金となる寄付金を明治初期から数度にわたり行っています。「香川金」と名付けられた基金は、生活扶助や起業のための資金として貸し付けられ、活用されました。また、鯉沼家が所蔵する香川敬三書簡は、敬三の故郷に寄せる思いが分かるものとして注目されます。

最初の妻鯉沼竹子との間の一人娘・志保子は女官として宮内省に採用され、23歳から2年間英国に留学して語学を習得、明治天皇の皇后に通訳として仕えました。志保子と蓮田哲太郎の縁談について記された書簡（年代不明・鯉沼家文書7）には、縁談が不調に終わっても鯉沼・蓮田の両家の関係が悪化しないよう配慮するとともに、本来当主となるべき自分が鯉沼家を出て宮内省に勤務している現状や、娘の志保子まで東京に引出し、女官勤めをしていて故郷に帰らせることができない状況について、「不敵の所業」「多罪免れ難く」として養家鯉沼家への謝罪の気持ちを述べています。新政府での栄達の一方で、若くして離れた故郷へ寄せる思いを吐露したものと注目されます。

【参考文献】皇學館大学史料編纂所編『香川敬三履歴史料』平成4年、同編『図録・香川敬三関係史料の世界』皇學館大学出版部 平成24年

〈文書館エントランス展示〉  
香川敬三の手紙 2月3日（日）まで  
※月曜・祝日・年末年始休館